神戸ポートアイランド 新しい“海の文化都市”の創造†

大屋 昌弘*

図1 ポートアイランド完成予想図(合成写真)

1. はじめに

神戸港の中央に、15年の歳月をかけて生まれた新しい「海の文化都市・ポートアイランド」。この中心街区にランドマークとしてそそり立つ神戸ポートピアホテルからのながめはすばらしい。北側に六甲連山が東西に連なり、その前面のゆるやかな斜面に市街地や港がひろがり、南側は大阪湾沿いの大阪、堺、和歌山はもとより、淡路島まで一望のもとに見渡せる。夜は街に灯がともり、なお一層すばらしい夜景が目の前にひろがり、自然と人工の調和を感じさせる。

このポートアイランドの完成を記念して、3月20日から9月15日まで、神戸ポートアイランド博覧会(ポートピア'81)を開催し、全国からまた外国からも大勢のお客さんがつめかけてたいへんにぎわいを見せている。こうして神戸を訪れた人々が、未来都市をめざして造ったポートアイランドを、また神戸を広く知ってもらうことを期待している。

図2 摩耶山からの展望

3. 土地利用計画

将来人口2万人の「住み、働き、憩い、学び、集う」という都市のあらゆる機能を備え、経済、文化、情報、国際交流の中核となる、世界で初めての「海の文化都市」の創造をめざしている。これはポートアイランドが、コンテナで代表される外国貿易における物の流れの拠点であると同時に、都市中心部に近い立地を生かし、神戸のもつ特性を生かした「緑あふれる国際色豊かな街」を創造し、これらの機能を有機的に調和・融合させ、人間中心の街を実現しようとする新しい試みである。

(1) ポートスクエア(港湾関連用地 233 ha, 全体の53%)

コンテナ埠頭12バースライナー(一般外航定期船)埠頭15バース、およびその背後の港湾機能用地からなっている。コンテナヤードは45年以来稼働しており、現在コンテナ貨物取扱量は世界一である。

(2) インタナショナルスクエア(32 ha)

神戸の国際的、近代的感覚を生かし、神戸らしさに満ちた文化を育成する拠点として、また世界の窓口としての国際的な取引と交歓の場を提供するとともに、市民が集い、語らい、憩う場を提供することをめざしている。

(a) コンベンション(国際会議・見本市)都市施設

国内・国外の会議や見本市を誘致し、新しい都市機能を推進するために、神戸国際会議場、神戸国際展示場、貿易促進センター、神戸ポートピアホテル、その他関連施設として、集会や催し物ができるスポーツセンターなど、最新設備をもった大型施設がすでに建設されている。

2. 事業の概要

ポートアイランドは、神戸市の都心である三の宮から南へ3 kmの海上に浮かぶ南北約2 km、東西約3 km、埋立て面積436 haで、甲子園球場が110もはいるほど大きい。

みなと街神戸の沖合いに、21世紀の未来都市を築くという壮大な夢を、税金をほとんど使わないで、マルク債などの借入金により2,300億円の巨費を投じ、「山、海へ行く」の言葉どおり8,000万m³分の山を削り、跡地はニュータウンをつくり、この土砂を幅2 mの空中ベルトコンベヤーで海岸まで運び、海のダンプトラックと呼ばれるブッシャーバージ(押船)で海を埋め立てた。この間最新の技術開発を数多く行ない、41年の着工以来15年を費してこの56年2月に埋め立てが完了した。

同時に、このポートアイランドの中心部と三の宮を約10分で結ぶ、わが国で初めての新交通システム・ポートライナーが開通し、営業運転を始めた。

† Creation of a New "Cultural City on the Sea" on Kobe Port-Island

* 神戸市開発局計画課 Masahiro Oya 紹介者 専門会員 吉川孝次郎

業種別利用の
公園緑地
コミュニティスクエア
インターナショナルスクエア
市街地サービス地区
流通業務地区

加工サービス地区
公共・公益施設用地
埠頭用地
港湾機能用地
道路・護岸等用地

図3 土地利用計画図

(b) ファッション系業務施設

知識集約型産業であるファッション関連企業を育成するために、またファッション都市神戸を実現するため、衣服、真珠、家具などの幅広いファッション系企業の集積を計り、ファッション街区とする。街づくりは、人間性あふれる快適な街づくりのモデル街区として計画している。

(c) 余暇関連施設

余暇時間の増大と有意義な活用のために、スポーツセンター、科学博物館、レジャーランド、文化教室・専修学校などを併存した民間住宅が建設され、計画されている。

(d) その他、都心型の新しいひろばとして市民広場、エキゾチックなふん囲気を楽しむショッピング・レジャーセンターのエキゾチックタウンなど、新しいユニークな構想のもとに各種施設計画がなされている。

(3) コミュニティスクエア (23 ha)

海と山が見え、緑あふれる、都心に近い、約 6,500 戸、人口 2 万人の高層高密度住宅街である。

(4) 市街地サービス地区 (7 ha)

ポートアイランド、および既成市街地のための各種サービス施設である市民病院、郵便局、電話局、生活科学研究所などが配置されている。

(5) マリンパーク (24 ha)

これらの地区を有機的に結びつけ、市民が海や港に親しみをもつよう北から南へ緑地を通し、北・中・南公園の大規模な公園緑地を整備している。

4. 新しい都市空間の環境・景観形成

ポートアイランドの中心地区(都市機能用地)は、道路、公園などの公共空間から私空間(敷地内空間)まで都市の環境と景観を総体的に捉え、土地利用計画などを考慮して必要な措置を講じている。

その基本目標は、「国際感覚あふれる、緑豊かな、若々

しいハイセンスな、明るい街」というイメージで「神戸らしさのある新しい街」を創造することとしている。

(1) 公共空間の環境・景観形成

景観道路として、都市軸であり緑地軸であるポートピア大通りを含めて 5 本を設定し、重点的に整備を行なう。

公園は、港と緑に親しむ公園としてそれぞれ特徴を持たせ、憩いと快い景観と魅力あるレクリエーションの場となるよう配慮している。

屋外照明計画は、新しい街づくりにふさわしい照明環境や演出を行ない、照明器具も新しいデザインとするために、榎石井幹子デザイン事務所に照明基本計画と照明器具のデザインを依頼した。

その他サイン、ストリートファニチュア、植栽、舗装面のペイズ。歩道橋、電話ボックスなどの景観要素についても全体の調和を基本にデザインしている。

(2) 半公共空間の環境・景観形成

ポートアイランドの都市空間の特徴は、主要な道路空間(公共空間)を軸として、公私両空間の緩衝帯(半公共空間—コモンスペース—道路境界線から 3 m ないし 5 m の壁面後退部分)を創出し、歩行者空間あるいは植栽帯として整備し、新しい街並みを創造していることである。

へいも生けがきを原則とし、車の出入り口の位置も制限している。

(3) 私空間の環境・景観形成

神戸市が各事業者と土地譲渡契約を結ぶ際に、「良好な環境・景観の形成および保全協定」を結び、この中でそれぞれの敷地が全体計画の中で占める役割に応じて、条件を設定している。

具体的には隣地からの 2 m の壁面後退、建物の主要面の向き、屋外広告物の規制、点滅灯の禁止、洗たく物の措置などについて定めている。

(受付1980年6月6日)